

付 国際連盟による対中国援助問題

211 昭和8年4月13日

伊藤連盟事務局長代理より  
内田外務大臣宛(電報)

連盟の対中国援助につき総連絡員の設置など  
を内容とする連盟事務局情報部の口<sup>ハ</sup>ニケ  
発表について

パリ 4月13日後発  
本省 4月14日前着

第六六號

連盟事務局情報部八十日突如連盟ノ支那ニ對スル義務的援助ノ件ニ關シ大略左ノ如キ「コムミニュニケ」ヲ發セリ何等御参考迄右原文郵送ス

聯盟ハ一九三一年五月理事會ノ採擇セル「プラン」ニ基キ從來衛生、交通、學藝協力及經濟、財政ノ専門家ヲ支那ニ派遣シ右ハ何レモ多大ノ效果ヲ收メ得タリトテ事業ノ實績ヲ擧ケタル上現在支那ニ在リテ活動シツツアル者ハ

衛生聯絡員 Dr. Borcic (「ユーゴスラヴ」) 學藝協力委員會ノ任命セル南京中央大學教授タル Parejas (瑞西)

Wissmann (澳大利) Davy (英國) ノ三名交通ノ正副聯絡員 Okenski (波蘭) Bourdrez (和蘭) 農業法制ノ専門家タル Dragoni (澳大利) 絹ノ専門家 Marie (澳大利) 財政部員 Charron 等ナルカ最近支那政府ハ事務總長ノ推薦ニ依り内政部附専門家トシテ元英國勞働省官吏タリ Somervell 並電信電話局附専門家トシテ元「フランクフルト」電話局長タリン Lange ヲ採用シ兩人ハ日下赴任ノ途ニ在リ衛生部長 Reichmann 亦前回ト同様ノ任務ノ爲渡支ノ途中ニ在リ尙近キ將來郵便問題専門家及教育部附タルヘキ文教官吏ヲ派遣ノ豫定ニテ斯ノ如ク専門家ノ數極メテ多キノミナラス其ノ處理スヘキ事業ハ多岐廣汎ニ亘ルヲ以テ支那ノ現地ニ聯盟トノ間ノ總聯絡員ヲ置クノ要アル旨ヲ掲ケ居レリ

在支滿各公館中適當ノ向ヘ轉電アリ度シ

212 昭和8年5月17日 林(寿夫)関東庁警務局長より  
重光外務次官他宛

国民政府による連盟各国からの各部顧問招聘  
状況について

關機高支第一〇二九九號  
昭和八年五月十七日

(5月22日接受)

ロン博士ハ本年二月頃渡支シ財政顧問ニ就任シ居リ左記各部ノ顧問モ本月中ニ全部渡支ノ豫定ナリト

拓務次官殿	關東廳警務局長
内閣書記官長殿	
外務次官殿	
内務省警保局長殿	
指定廳府縣長官殿	
關東軍參謀長殿	
關東憲兵隊司令官殿	
旅順要港部參謀長殿	
滿鐵資料課長殿	
管下各警察署長殿	
支那側聯盟ヨリ各部顧問招聘	

奉天満人某ノ許ヘ南京ヨリ達シタル情報ニ依レハ國民政府ハ聯盟諸國ト積極的提携ヲ爲シ現下ノ外交的苦境ヲ打開スヘク一九三一年國際聯盟ト國民政府間ニ成立サレタル經濟開發及技術合作案ニヨリ政治、經濟、文化各方面ノ顧問ヲ聯盟各國ヨリ招聘スルコトニ決シ既ニ聯盟ノ財政専門家力

奉天満人某ノ許ヘ南京ヨリ達シタル情報ニ依レハ國民政府

ハ聯盟諸國ト積極的提携ヲ爲シ現下ノ外交的苦境ヲ打開ス

ヘク一九三一年國際聯盟ト國民政府間ニ成立サレタル經濟

開發及技術合作案ニヨリ政治、經濟、文化各方面ノ顧問ヲ聯盟各國ヨリ招聘スルコトニ決シ既ニ聯盟ノ財政専門家力

在シンガポール田村(貞治郎)總領事  
より  
内田外務大臣宛(電報)

213 昭和8年6月7日

以上

## 蔣介石よりライヒマン宛電報に関する情報に

ついて

し連盟理事会による中国援助特別委員会の設置について

シンガポール 6月7日後発

本省 6月7日後着

パリ 7月4日後発

本省 7月5日前着

第六一號（極秘）

往電第五七號ニ關シ

大内ノ内報ニ依レハ蔣介石ヨリ盤谷氣附「ライヒマン」宛長電二通（「ベントレー」符號）同人當地出發後回附有り試ミニ一部譯讀セル處蔣ハ「ラ」カ過般態々南京ニ來訪有力ナル助言ヲ與ヘタルハ各要人將領ノ深ク徳トスル所大体助言通り進行ノ見込ニ付一層援助ヲ請フトノ趣旨ナリシ由ニテ同人ノ通信ハ蔣ト會見ノ爲ナリシモノト察セラル尙同人ハ聯盟ヲ利用シテ支那ニ恩ヲ賣リ最高顧問ニテモ坐リ込ミ私利ヲ圖ラントスル下劣ナル人物ナルカ如シ大内ノ身分關係モ有リ外部ニ極秘トセラレ度シ

214 昭和8年7月4日

伊藤連盟事務局長代理より  
内田外務大臣宛（電報）

連盟との協力強化に関する宋子文の申出に対

215

昭和8年7月4日 伊藤連盟事務局長代理より

内田外務大臣宛（電報）

宋子文の連盟協力強化に関する申出にはライヒマンの画策ありとの情報について

貢擔シ來レル以上ノ責任ヲ取ル事能ハサルヲ以テ幸ヒ支那ヨリ理事會ニ申出アリタル此ノ際右申出ヲ審査シ且ツ本件ニ關シ總ユル措置ヲ採リ得ル權能ヲ有スル理事會ノ特別委員會ヲ設置スル事然ルヘシトノ意見ヲ提出セリ

三次テ顧維鈞ヨリ今回申出ノ趣意並問題急ヲ要シ九月迄待チ得サル爲臨時理事會ニ上程セル次第ヲ説明セルカ獨逸

理事ヨリ前記事務總長提案ノ趣旨ニハ贊成ナルモ特別委員會ノ任務ハ餘程微細ニ亘リ決定シ置ク要アリ且ツ委員

會國ハ理事國以外ヲモ含ムヘキヤ否ヤニ付テモ考慮ノ餘地アリトノ意見ヲ述へ結局理事會ハ原則トシテ委員會設置ヲ可決シ一旦閉會

四、其ノ後議長ニ於テ各方面ト非公式ノ協議ヲ重ねタル結果午後ノ理事會ニ於テ英、佛、伊、獨四常任理事國ノ外交

那、西班牙、諾威、智利ノ四國ヲ委員會國トシ尙必要ノ場合他ノ國（支那ノ希望ニテ非聯盟國ヲモ含ム事トナル）ヲ委員會ニ參加方招請スル事ニ決定セラレタリ

御裁量ニ依リ大臣ヨリ支、滿方面ニ轉電又ハ轉報アリタシ英、米ニ轉電セリ

四 國際連盟における諸問題

第一二〇號

一、在倫敦宋子文ハ客月二十八日書翰ヲ以テ事務總長ニ對シ

聯盟ノ支那技術的援助ニ關スル一昨年支那政府ノ理事會ニ對スル申出ノ要點ヲ敍シ且ツ同年五月理事會決議以來實施セラレタル諸援助ニ對シ謝意ヲ表シタル後支那政府ハ今ヤ準備的研究ヲ終了セルヲ以テ愈々第一着手トシテ少數ノ省ニ再建計畫ヲ實施シ以テ之ヲ他省ニ對スル模範タラシメントスルニ決定セル次第ヲ告ケ最後三支那政府ハ本計畫ニ對シ理事會力將來繼續的ニ協力ヲ與ヘン事ヲ熱望シ特ニ出來得ル限り速ニ聯絡員トシテ同政府並全國經濟委員會ニ簡派セラルベキ Fonctionnaire technique 一名ヲ任命スル事甚タ有要ナルヘシトノ趣旨ヲ申出テタリ

二、本件ハ三日ノ臨時理事會ニ上程セラレ先ツ事務總長ヨリ本問題從來ノ事業概略ヲ説明ノ上事務總長トシテハ今迄

第一二一號

昭和8年7月4日 伊藤連盟事務局長代理より

内田外務大臣宛（電報）

往電第一二〇號ニ關シ原田ノ各方面ヨリ得タル情報何等御参考迄左ノ通

一、先ニ渡支シタル「ライヒマン」（往電第六六號中段參照）ハ六月中旬急遽歸壽シ直ニ倫敦ニ宋子文ト打合ヲ遂ケタル事實アリ今尚滯倫中ナル處前後ノ事情ヲ綜合スルニ恐

ラク「ラ」カ宋子文ト種々畫策ノ未問題具体化シ今同ノ書翰トナリタルモノナルヘク「アブノル」トシテハ從來ノ經驗ニ鑑ミ事務總長トシテ此ノ上責任ヲトリ得ス且又本件ニ政治問題カ含マレ來ル様ノ場合之ヲ優ニ差止ムル方法トシテ特ニ大國ヲ網羅スル理事會委員會設置案ニ想

到セルモノナル由

二、三日獨逸理事發言ノ眞意ハ自國ノ委員會割込ノ外白耳義

和蘭ノ如キ九國條約國ヲモ之ニ含マシメントスルニアリ

又ニハ「ライヒマン」ノ畫策ニ對シ面當テノ意味モアリ

リトル説明多シ

三、聯絡員ニ關シ支那政府ハ「ラ」カ恒久的ニ此職ニ當ランコトヲ希望シ居ルモ此場合「ラ」ハ保健部長ノ職ヲ拋棄スルノ余儀ナキニ至ルヘク旁目下躊躇シ居ル由ナルカ結局ハ半年位現職ノ儘ニテ聯絡員トシテ支那ニ出掛け地位ノ問題ハ追テ解決ノコトトナルヘシトノコトナリ

四、委員會差當リノ任務ハ聯絡員ノ任命ノ外定リタルモノナキモ其任務ノ内容ヲ決定スルノ要モアリ且ツ宋子文「ライヒマン」「アブノル」等目下倫敦滯在中ニ付或ハ近ク同地ニ於テ第一回會合ヲ催スコトトナルヘシ

前電通り轉電セリ

216 昭和8年7月11日 内田外務大臣より  
伊藤連盟事務局長代理宛(電報)

連盟の対中國援助強化に關しアブノル連盟事務總長などに注意喚起方訓令

本省 7月11日後発

貴電第一二〇號及第一二一號ニ關シ  
一、最近支那ニ於テハ蔣介石、汪兆銘、黃郛等ハ從來ノ遠交近攻ニ依ル抗日策ノ行キ詰リニ鑑ミ對日關係ノ建直シニ向ハムトスルヤノ徵アル次第ナル處支那側ニシテ右ノ如キ態度ニ出テ來ルニ於テハ我方亦之ニ對應スル態度ヲ以テ之ヲ迎ヘムトスルモノニシテ(現ニ北支政權ノ非武裝地帶接收ノ如キモ我方ノ好意アル協力ニ依リ着々進行シ居レリ委細在佛大使宛往電ニ依リ御承知相成度)斯クシテ進マハ日支關係モ漸次常規ニ復シ支那側トシテモ專心一意其ノ國內ノ整備ニ邁進シ得ヘキ義<sup>(義)</sup>ナリ

二、然ルニ宋子文一派ハ今尙ホ聯盟乃至歐米列國ノ勢力ヲ利用シテ抗日ヲ事トセムトシ居ルモノノ如ク現ニ曩ニ同人ノ努力ニ依リ成立セル米國綿麥借款ハ右策動ノ爲流用セラルヘキヤノ相當信スヘキ情報アリ又同人ハ張學良ト相次テ歸國ノ上兩人提携シテ舊東北軍ヲ糾合シ黃郛政權ノ打倒及抗日運動ニ從事スル計畫ナルヤノ報道モアルニ付我方ニ於テハ此等策動ニ對シ充分ノ警戒ヲ加フルト共ニ支那側等ニ對シ相當ノ手配ヲナシ居ル次第ナリ

三、惟フニ綿麥借款タルヤ米國側トシテハ國內農業救濟ノ外他意ナカルヘシト察セラルモ支那側ニ於テ之ヲ不純ナル目的ニ流用スルノ虞アルコトハ苟モ支那ノ實情ニ通スルモノニハ前記情報ヲ俟タストモ明ナルヘク要スルニ支那ノ實情ヲ窮ムルコトナク漫然之ニ援助ヲ與フルカ如キハ同國ノ事態改善ニ資スルコトナク却テ害惡ヲ殘スニ過キス殊ニ支那側ニ於テ綿麥借款等ヲ利用シ抗日策動ヲ計ラムトスルカ如キ場合ニハ我方ニ於テモ之ニ對應スル措置ニ出テサルヲ得サルコト勿論ニシテ結局支那側トシテハ過去一年有半ノ轍ヲ踏ミ益々悲境ニ沈淪スルニ過キサルヘシ

四、然ルニ冒頭貴電ニ依レハ聯盟側ハ宋子文運動ノ結果其ノ對支援助ニ更ニ深入セムトスルモノナルカ如キ處支那側ニ於テハ必スヤ之ヲ其ノ傳統タル遠交近政策ニ當テハメ抗日運動ニ利用スヘク(支那側ハ其ノ抗日策ニ對シ聯盟側力援助ヲ與フルモノナルカ如ク誤解シ該運動ヲ盛ニスベク又少ク共聯盟ノ援助ニ右様ノ意味ヲ帶ヒ來ルヘシ殊ニシ)從テ該援助ハ當然ニ政治的色彩ヲ帶ヒ來ルヘシ殊ニ聯盟側ニテハ「フォンクシヨネール、テクニック」トシ

第九九號

貴電第一二〇號及第一二一號ニ關シ

一、最近支那ニ於テハ蔣介石、汪兆銘、黃郛等ハ從來ノ遠交近攻ニ依ル抗日策ノ行キ詰リニ鑑ミ對日關係ノ建直シニ向ハムトスルヤノ徵アル次第ナル處支那側ニシテ右ノ如キ態度ニ出テ來ルニ於テハ我方亦之ニ對應スル態度ヲ以テ之ヲ迎ヘムトスルモノニシテ(現ニ北支政權ノ非武裝地帶接收ノ如キモ我方ノ好意アル協力ニ依リ着々進行シ居レリ委細在佛大使宛往電ニ依リ御承知相成度)斯クシテ進マハ日支關係モ漸次常規ニ復シ支那側トシテモ專心一意其ノ國內ノ整備ニ邁進シ得ヘキ義<sup>(義)</sup>ナリ

二、然ルニ宋子文一派ハ今尙ホ聯盟乃至歐米列國ノ勢力ヲ利用シテ抗日ヲ事トセムトシ居ルモノノ如ク現ニ曩ニ同人ノ努力ニ依リ成立セル米國綿麥借款ハ右策動ノ爲流用セラルヘキヤノ相當信スヘキ情報アリ又同人ハ張學良ト相次テ歸國ノ上兩人提携シテ舊東北軍ヲ糾合シ黃郛政權ノ打倒及抗日運動ニ從事スル計畫ナルヤノ報道モアルニ付我方ニ於テハ此等策動ニ對シ充分ノ警戒ヲ加フルト共ニ支那側等ニ對シ相當ノ手配ヲナシ居ル次第ナリ

土ヲ除ク在歐各大使及壽府ニ轉電アリ度

支、北平、米ニ轉電セリ

支ヨリ南京ニ轉報アリ度

シ理事會委員會ノ設置ヲ要求シタル次第ナリ

二、「ア」ノ考ニ依レハ右責任上ノ變更アリタルモ支那政府

ヘノ援助ハ目下ノ處之ヲ擴張スルノ意思無ク從テ豫算モ

從前通り計上ノ筈ナリト

217 昭和8年7月11日 在英國松平大使より  
内田外務大臣宛(電報)

連盟理事会中國援助特別委員會の設置などに  
関する連盟事務總長との会談について

第三七一號 本省 7月11日前着 ロンドン 7月11日前發

伊藤ヨリ

巴里聯盟發往電第一二〇號對支援助問題ニ關シ十日事務總

長ト會談ス

一、本官ノ質問ニ對シ「アブノル」ハ理事會委員會ノ設置ハ  
一昨年五月理事會決議ニ基キ從來事務總長ノ責任ニ於テ  
援助事業ヲ遂行シ居タルモ支那ノ形勢ハ「デリケート」  
ナルヲ以テ今後支那政府ニ對スル援助ハ單ニ總長ノ責任  
ニ依ラス理事會ノ責任ヲ以テ行フコトト爲ス方適當ト信

米ヘ轉電シ、巴里聯盟、獨、伊、白ヘ暗送セリ

218 昭和8年7月12日 在英國松平大使より  
内田外務大臣宛(電報)

連盟の对中国援助などに關する連盟事務總長  
との再会談について

ロンドン 発 本省 7月12日前着 第三八二號

往電第三八一號ニ關シ 伊藤ヨリ

「アブノル」ノ希望ニ依リ十一日更ニ會談ス

一、「ア」ヨリ昨日ノ會見ニ付熟考シタル結果補足シ度キ點

アリト前提シ支那ト聯盟トノ協力ハ一昨年五月理事會決  
議ニ依リ定マリ居リ右ハ技術的方面ニ限定セルコト御承  
知ノ通ナルカ今後理事會ハ右決議ノ趣旨ニ依リ行動スル

コト勿論ニシテ自分トシテハ理事會ノ行動ニ關シ何等容  
嘴スル權限ナキモ事務總長ノ關スル限り右技術協力ハ日

支關係ヲ惡化スル結果ヲ招ク方向ニ進マシメサル決心ナ  
ルニ付右特ニ申上ケ置キ度ク御來訪ヲ煩ハシタル次第ナ  
リト述ヘタリ

二、依テ本官ヨリ率直ニ申上クレハ聯盟ト支那政府トノ技術  
的協力夫レ自身ヨリハ右實行ノ任ニ當リシ聯盟書記局員

ノ行動ニ關シ日本新聞紙上ニ相當ノ攻擊現レ右ハ事實ナ  
ラスト信スルモ本官トシテハ斯ルコトノ繰返サルルコト

219 昭和8年7月12日 伊藤連盟事務局長代理より  
内田外務大臣宛(電報)

中國援助特別委員會に提出される对中国連絡  
員などに關する連盟事務總長試案について

本省 7月13日前着 パリ 7月12日後発

往電第一二〇號ニ關シ

一、本件特別委員會ハ宋子文十九日「シェルブル」乗船ノ關係上十八日巴里聯盟事務所ニ於テ開催ニ決定

三、右會合ニ提出セラルヘキ事務總長試案要旨左ノ通

(一)聯絡員タルヘキ技術官ノ任務ハ

(イ)聯盟ノ各技術機關ノ活動振及之等機關ヲ如何ナル方法

ニ依リ本件事業ニ利用スヘキヤニ關スル情報ノ供給

(ロ)支那政府ヨリ聯盟機關ノ協力要求アル場合當該機關ノ活動方法ニ關スル説明的意見ヲ附シ之ヲ事務總長ニ轉達スルコト

(ハ)支那政府力専門家ヲ傭聘シ其ノ援助ヲ得ルニ必要ナル措置ヲ執ル爲全國經濟委員會ヨリ要求アル場合之ヲ援助スルコト

(イ)聯盟技術機關ヨリ派遣ノ専門家竝支那側ノ希望アル場合支那側ノ傭聘セル他ノ専門家ノ支那ニ於ケル活動振

ヲ統制スル爲全國經濟委員會ヲ援助スルコト

ノ四點トス

聯絡員ハ隨時其ノ任務ノ進行振ヲ理事會ニ報告スヘク且

(一)聯盟技術機關ヨリ派遣ノ専門家竝支那側ノ希望アル場合支那側ノ傭聘セル他ノ専門家ノ支那ニ於ケル活動振

ヲ統制スル爲全國經濟委員會ヲ援助スルコト

ノ四點トス

聯絡員ハ隨時其ノ任務ノ進行振ヲ理事會ニ報告スヘク且

伊藤ヨリ

御訓電接到前十一日「アブノール」ト會談ノ際類似ノ點ニ

關シ注意ヲ喚起シ置キタル次第ハ往電第三八二號ノ通ナルカ十三日更ニ「ア」ト會見御訓電ノ次第(ヲ)詳細申入レタル處「ア」ハ

一、昨日會見ノ際自分ヨリ理事會モ書記局モ日支關係ノ惡

化ヲ欲スルモノニ非サルコトヲ申上ケタルカ只今ノ御話

ハ右ノ如キ一般論ヨリ進ミ細目ニ入り居ル様思考セラル

ル處主要理事國ハ日支關係ノ惡化ヲ希望セス從テ其ノ虞

アル行動ヲ避クルハ明瞭ナルト共ニ聯盟ト支那政府トノ

技術的協力即チ支那政府ノ利益ノ爲ニ協力スル方針ヲ變

更スルコト無カル可ク而シテ右協力ハ理事會決議ノ結果

當然ノコトニシテ何モ新シキコト無キ次第ナリ

三、宋子文ハ倫敦ニ於テ殆ト凡テノ主要政治家ト會見シタル

ノミナラス各國政府ヲ歴訪シ責任者ト會見セル處宋カ各

國政府ヲ強ク「インプレス」セルコトハ皆ヨリ一致シテ

聞ク處ナルカ御話ノ如ク宋カ抗日策ヲ有スルモノトスル

モ如何ナル政府モ斯ル政策ヲ助長スルカ如キ態度ヲ示サ

サリシコトハ自分ノ聞知スル處ニシテ米支借款締結ノ際

渺クトモ年一回詳報ヲ提出スルモノトス

聯絡員ハ絞上ノ任務ヲ行フニ當リ調査ヲ爲ス要アル場合事務局諸技術部ノ援助方ヲ事務總長ニ要求スルコトヲ得ルモノトス

(二)特別委員會ハ

(イ)今後支那側ヨリ理事會ニ提出セラルヘキ技術的援助ニ關スル凡テノ問題ヲ研究シ

(ロ)聯絡員ノ報告ヲ審査シ且聯絡ノ任務ノ達成ニ關スル凡テノ問題ヲ論議スルコトトス

在歐米各大使(土ヲ除ク)ニ轉電セリ

220  
昭和8年7月13日 在英國松平大使より  
内田外務大臣宛(電報)

連盟の对中国援助強化などに関する連盟事務

総長との会談について

ロンドン 7月13日後発

本省 7月14日前着

巴里聯盟宛貴電第九號ニ關シ

第三九二號

モ米國側ハ之ヲ日支關係惡化ノ具ニ供セサルコトヲ「イ

ンシスト」シタル由ノ噂アリ

三、理事會力前記二ノ趣旨ヨリ支那政府トノ協力ハ政治的性質ヲ有スルモノヲ除外スルコトヲ特ニ明瞭ニシタルハ聯盟トシテ支那ニ政治的援助ヲ與フルコトヲ考ヘ居ラサル證左ナリ

四<sup>(2)</sup>派遣員ノ任命ハ全ク理事會ノ權限ニ屬スルヲ以テ此點ニ

關スル御申出ニ對シテハ意見ヲ留保セサルヲ得ス尤モ

如何ナル人力任命セラルルトスルモ同人ニ對シテハ理事會ヨリ詳細ナル訓令ヲ與ヘラルル事トナルヘク右訓令力

既ニ申上ケタル如キ趣旨ニ基キ發送セラルヘキ事ハ明言シ得ル次第ナリ

ト述ヘタルニ付本官ハ聯盟ノ對支援助ヨリ政治的性質ヲ有スルモノヲ除外スト云ハルモ如何ナルモノ除外セラル

ヘキヤハ實際上極メテ不明確ニシテ之レ丈ニテハ政治的援

助ヲナササル保障トハナラサルヘシト述ヘタルニ對シ「ア」

ハ右ハ實際問題生シタル際決スヘキモノニシテ只今ハ原則

ヲ申上ケタル次第ナリト答ヘタリ

右ノ外更ニ支那ノ現狀ニ關シ質問應答ヲ重ネタル後別ルル

「際シ「ア」ハ貴トハ理事會ト支那トノ關係ニ關シ日本側

ノ立場ヲ述ベラレタルモ元來本件ハ既ニ理事會ノ決議ヲ經タル事ニモアリ交渉ノ餘地ナキ問題ナリトノ口吻ヲ洩シタ

ルニ付本官ハ本件ニ關シ彼は申シ上クルハ全ク日本ト聯盟トノ紛議ヲ避ケンカ爲ナリト應答シ置キタリ

米、獨、伊、白、巴里局長、壽府大使ヘ轉電セリ

~~~~~

221 昭和8年7月14日 在南京日高總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

宋子文提案の連盟による对中国援助強化案は政治的意味をもたないとの行政院長談話について

南 京 7月14日後発  
本 省 7月14日後着

第三六九號

十三日汪精衛ハ新聞記者ニ對シ左記要領ノ談話ヲ發表シ居レリ

一、宋子文力國際聯盟ニ對シ要望セル技術合作ナルモノハ單ナル技術的範圍ニ限ラレ中國力自主的ニ進行スルモノニシテ別ニ政治的意味ヲ有セス又模範省設置問題等ニハ何

等言及シ居ラス

「對英借款ノ件ニ付テハ今日迄宋部長ヨリ何等成立ニ關スル報告ナシ

「大規模ノ東北開發並重工業建設計畫ニ付テハ米支麥綿借款ノ運用ト關聯シテ考究スル必要アリ政府ハ未タ具体的

リ之ヲ決定シ居ラス

支、北平、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、滿洲轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

~~~~~

222 昭和8年7月18日 伊藤連盟事務局長代理より  
内田外務大臣宛(電報)

中国援助特別委員会のパリ会議發表について

外務大臣宛第一三〇申  
右委員会コムニケ

パリ 7月18日後発  
本 省 7月19日前着

第一一九號

往電第一一五號ニ關シ

本件特別委員會開催出席者ハ各國トモ聯盟局長級ノ人々ナルカ(「オブザヴァア」ニシテ米國大使館參事官出席ス)會議ノ後別電第二〇〇號「コムニケ」ヲ發表セリ

本電別電ト共ニ在歐米各大使(十二餘ク)へ轉電セリ

(別 電)

ペ リ 7月18日後発  
本 省 7月19日前着

No.130

<sup>(1)</sup> Committee recently created by Council League connection with technical cooperation between League

China held first regular business meeting today at

League office Paris under presidency Najera Delegate Mexico and acting President Council. States members

Committee were represented follows (Shooryaku) League technical cooperation with China was formally

initiated May 1931 through telegram President Chiang and Soong suggesting Council possibility collaboration 国際連盟における諸問題

in various field of government interest including health transit finance economics and education. Council accepted suggestion and in subsequent years representatives League technical organizations visited China and elaborated various proposals for technical assistance. As result appreciable number of technical experts been sent China either as officials League or as appointees Chinese Government itself. At present moment there are about dozen such officials in China including experts health civil engineering agriculture silk growing civil service telephone telegraph and education.

<sup>(2)</sup> This cooperation seems to Council to offer such possibilities of helpful and nonpolitical collaboration that it decided at last session Geneva to create Special Committee to coordinate and develop it. It was that Committee which met today Paris to outline plans for future work. At opening meeting Secretary General Avenol states he had informed US government of Council resolution and that government had manifested

第1回会議  
十九日佛國外務次官「ムジヒ」ヘ會談要領左ノ通  
「本官ヨリ昨日「マニタコ」ヘ會談シ往電第一二九號會議  
ノ模様ヲ聽取セルカ聯盟カ此ノ眞偽ニ對支援助ヲ行ハ  
スヘル理窟自分リハ「解困難」シテ疑ヲ抱カシムル餘地

way as it might deem appropriate. US Ambassador Paris informed Committee that American Government glad of opportunity to be informed of work Committee would be happy to designate Marriner Counselor Embassy as unofficial observer to attend first meeting Committee and report on proceedings. Marriner expressing to Committee his government's appreciation of invitation stated that as he had not been aware of agenda meeting in advance he would confine himself strictly to role of observer and communicate to government any action which Committee might take in order that it might guide itself in light of full information which Committee kindly made available to it through his presence.

<sup>(3)</sup> Committee then proceeded to discuss questions put before it. Soong expressed appreciation of result already accomplished through technical cooperation initiated during past few years and his hopes that Committee's

position. Committee unanimously agreed on appointment of Rajchman Director Health Section League who has several times visited China connection with such technical cooperation as present plan envisages. Rajchman's appointment is for term of one year to be attached to National Economic Council China.

Ito

~~~~~

223 昭和8年7月19日 伊藤連盟事務局長代理内田  
内田外務大臣宛(電報)

連盟の本件援助強化への対応などに關する

「公国外務次官」の側談レポート

ペリ 7月19日後発  
本省 7月20日前着

アル次第ナリト述くタル處「ム」ヘ今迄聯盟ヨリ支那へ派遣セラーネタル者ハ技術専門家ヘハ乍ラ技術問題以外リサラ延シ理事會決議ヘ必スシヤ合致セサル點アリシヲ云ト今般本件事業ノ責任ヲ明カリシ政治的意味無キコトハ明確リシタル次第ナレハ日本ニシテハ當初ノ御希望通りナリ却テ好都合ナラベヤト答ヘタリ依テ本官ハ然レ申今回任命セラーネタル聯絡員ニ對シテハ豫テヨリ惡評ヲ耳ニセルコト屢ナリソニ其ノ任命ヲ見タルハ事實上理事會乃至貴トノ本件ニ對スル御考ト異ル譯トナラスヤト質タハリ「ム」ヘ「ハイヨマハ」ヘ支那ヨリ雖ミタル人ニテ且支那側ニテ給與ヲ負擔スル申出テタル以上同人ヲ任命セサル譯ニハ行カサル次第ナリト辯明セリ

「本官ヨリ聯盟ノ話ノ序ニ御尋ネシ度譯ナルカ軍縮ニ付貴國政府ニテ(ハ)如何考ヘラルヤト問ヒタル處「ム」ヘ過日「ムンターノ」來佛シ政府要路ト會談セルカ「ム」ヘ今回ハ立場ハ交渉者又ハ調停者ニ非スシテ單ナル「インワオメイシヨン」ナリ佛國政府トシテハ從来壽府リテ表明シ來レル意見ヲ繰返シタルリ止マレリト答フ更リ本官ヨリ然ハ佛國ハ從來通り安全保障ノ條件付ニ

action might increase and extend cooperation in future. First question was as to Chinese Government suggestion that technical delegate be appointed to be responsible for maintaining liaison between Chinese Government and competent organs League. Chinese Government had pointed out and Committee agreed that cooperation already effected was so various as to render desirable appointment of expert who could coordinate it through single channel and serve as liaison agent with League. Committee accordingly accepted proposal in principle.

<sup>(4)</sup> Second question was as to precise role and duties of such technical delegate. There after some discussion of principle upon which scheme of technical cooperation is being worked out Committed agreed on resolution (which will be made public soon possible) which emphasized that guiding principle of collaboration should be that it is entirely technical impartial and nonpolitical and administered on broadest international basis. Third question was as to actual nomination to be made for

テ今後軍縮交渉ヲ進行セシムルコトヲ承認スル次第ナリヤト尋不タルニ「レ」ハ然リサレト一ノ新シキ事態アリ夫ハ獨逸最近ノ情勢ナリ少クトモ歐洲ニ關スル限り獨逸ノ政局力如何ナル所迄進展スルヤヲ見居ケサル以上軍縮ノ進行ハ期シ難シ況ヤ獨逸ハ從來ト異リ現ニ軍備ヲ整ヘツツアルニ於テヲヤ十月會議ヲ再開スルモ獨逸ノ情勢決定セサル以上會議ノ進行疑ハシク恰モ經濟會議ニ於テ米國ノ態度力會議ノ成否ヲ決シタルト同様軍縮ノ成否ハ歐洲各國ノ關スル限り獨逸ノ態度ニ懸レリト述ヘタリ

三、辭去セントスルヤ「レ」ハ本官ヲ引止メ支那ノ現狀ハ如何ト質問シタルニ依リ本官ハ此ノ問題ニ付テハ在佛大使館ヨリ既ニ委細説明アリタルコトト思考スルモ兔ニ角御尋アリタルヲ以テ本官ヨリモ一應御話スヘシト前置ノ上閣下ヨリノ累次ノ御電報ニ依リ蔣介石ノ地位、其日本ニ對スル態度、之ニ對スル日本ノ態度等ニ付詳細説明ノ上日本政府トシテハ聯盟佛國政府其他何人タルヲ問ハス支那力日本トノ關係ニ關スル限り正常狀態復歸ニ努力シツツアル此ノ際之ヲ妨ケ又ハ之ニ紛糾ヲ釀セントスルカ如キコトアラハ之ニ反対スヘシトノ方針ナルヘシト思考セ

(1) 七月十八日澤田參事官ヲシテ外務省極東部長ヲ往訪セシメ宋子文昨日羅馬ヨリ來着シタル趣ニモアリ尙本日ヨリ對支技術援助問題ニ關スル聯盟委員會當地ニ於テ開カルル趣ニモアリ旁以テ別ニ訓令ニ依ル次第二アラサルモ之ニ關スル日本政府ノ意向ヲ御話シ置クコトハ無益ナラサルヘシト考へ來訪シタル次第ナリトノ前提ノ下ニ

(2) 支那ニ於テハ蔣介石黃郛等ノ對日態度ノ緩和最近顯著ナルモノアリ其結果少クモ北支ニ於ケル同國ノ事態ハ益々平靜ニ赴キツツアル次第ナルカ我方ノ有スル情報ニ依レハ宋子文ハ右支那側首腦部ノ態度ニ嫌ラス米國ノ麥綿借款ニ成功シタルヲ切掛トシテ或ハ倫敦ニ於テモ借款運動ヲ試ミ羅馬並ニ當地ニ於テモ同様ノ活躍ヲ爲スヤノ趣ニテ而モ宋ハ繼續セントスル魂膽ヲ有スルモノト認メラル然ルニ現ニ麥綿借款ノ如キモ其半額ハ武器ノ購入ニ充當セラルルヤノ噂モアリ其他之等借款力如何ナル名義ノ下ニ成立スルニ拘ラス一度支那政客ノ手ニ歸スレハ專ラ自己ノ地盤ヲ固ムル爲ニ用ヒラレ却テ支那ノ内争ヲ助長スルノ結果トナルコトハ

224 昭和8年7月20日 在仏國長岡(春一)大使より  
内田外務大臣宛(電報)  
ライヒマンの對中國連絡員指名など對中國援助強化に関する沢田參事官と仏国外務省極東部長との会談について  
パリ 7月20日後発  
第三二八號  
本省 7月21日前着

ラルト告ケタルニ「レ」ハ支那ニ於テ貴下ノ言ノ如キ對日關係ニ關シ顯著ナル傾向アルハ確力ナリヤト問ヘルニ付本官ハ右ハ本官ノ有スル情報ニ基クモノナリト言ヘルニ「レ」ハ貴官ノ御話ヲ承リ誠ニ幸ナリト答ヘタリ尙十九日朝昨日ノ會議ニ列席セル「チエツコ」公使ト會議ニテ之ヲ抑ヘテ當初ノ技術的ノ範圍ニ止メタル次第ナルカ同會議ノ政治的意義ハ此ノ點ニ在リト述ヘ居タリ御参考迄在歐米各大使(土ヲ除ク)ヘ轉電シ壽府大使ヘ暗送セリ

此ノ點ハ充分御承知置キアリタキ旨ヲ述ヘシメタルニ

極東部長ハ

(一)ノ點ニ付先ツ蔣介石ノ對日態度緩和ニ付確信ヲ有セラル  
ルヤヲ特ニ念ヲ押シ之ニ對シ澤田ハ單ニ蔣ノミナラス汪精  
衛モ蔣ノ右態度ヲ支持シツツアル趣ナルカ特ニ先般ノ北支  
ニ於ケル停戰協定締結以後鐵道運行ニ關スル取極モ成立シ  
最近ニハ北支ノ非武裝地帶ノ接收ニ關スル交渉モ順調ニ進  
ミツツアル旨ノ報告アリ斯ノ如キハ南京側ノ充分ナル支援  
アルニ非サレハ腹背ニ多數ノ灰色將領ヲ率ヰ而モ自身トシ  
テハ何等兵力ヲ有セサル黃郛一人ニテハ到底爲シ得サル所  
ナルヲ見ルモ明カナルニ非スヤト答ヘタルニ極東部長ハ特  
ニ此ノ點ヲ「ノート」シタル上ニテ宋子文力當地來着以後

外務大臣ニ對シ單ニ「ビジット、ド、クルトワジー」アリ  
タルノミニテ其他政府筋ニ對シ財政問題ヲ持出シタルコト  
ハ自分ノ未タ聞カサル所ナリ而シテ宋ハ明日「プラツセル」  
ニ向ヒ出發ノ趣ナルヲ以テ民間ノ人達トモスル話合ヲナス  
餘裕ナカルヘシト思ハルモ何等其方面ノ情報アル場合ハ  
御知ラセスヘシト述ヘ

(二)ノ點ニ付先年「ライヒマン」ノ支那ニ於ケル行動ニ關ス

ル日本側ノ感觸ハ自分モ承知シ居ル所ニモアリ只今御話ノ  
日本政府ノ意向ハ外務大臣ニモ傳ヘ特ニ當省ノ國際聯盟部  
ノ注意ヲ促シ置クヘキ旨ヲ答ヘタル趣ナリ  
米、在歐各大使（土ヲ除ク）へ轉電セリ

225 昭和8年7月21日 在獨國永井大使より

内田外務大臣宛（電報）

ライヒマンの連盟对中国連絡員指名などに關  
する獨国外務省東方局次長との会談について

ベルリン 7月21日後発  
本 省 7月22日前着

第一五二號

外相軍縮問題ノ爲不在、次官休暇中ニ付二十日午后同日巴  
里ヨリ歸レル東方局次長ヲ訪ヒ宋子文來訪ニ關聯シ

(一)支那復興事業ニ日本除外ノ好マシカラサルコト

(二)宋ニ於テ外遊中得タル成功ヲ楯ニ歸國後反日策動ヲ爲ス  
ハ時局ヲ惡化セシムルモノナルコト

(三)「ライヒマン」ヲシテ政治ニ容喙セシムルノ危険ナルコ  
ト

少支那軍隊ニ望ミヲ囑シタルモ斯ノ醜態ヨリシテ到底日本  
武力ノ敵ニ非サルヲ確知シタルヤ失地回復ニ望ヲ懸クル勇  
氣ハ諸國側ニ存セス宋如キ敏感者カ茲ニ氣附カサル筈ナシ  
ト思考ス當地來訪（脱？）空相ハ不在、宰相ニハ面會セル  
モ宋ノ希望ハ主トシテ有力實業家トノ會談ナリト答ヘタリ  
本使ハ重ネテ日本力民國復興ニ助力ヲ惜マサルコト、日本  
ヲ排除シテ成功ヲ期スルハ謬見ナリ否東洋平和維持ハ之ニ  
依リ期待シ得ヘカラサルコトヲ繰返シ述ヘ置キタリ  
上記面會前「ゾルフ」氏來訪外務省ヨリノ聞込トシテ當局  
ハ波蘭出猶太人タル「ライヒマン」ヲ危險視シ居ル旨ヲ内  
報シ吳レタリ

在歐各大使（土ヲ除ク）及米ヘ轉電セリ  
佛ヨリ聯盟局長ヘ電報アリタシ  
米ヨリ紐育ヘ轉報アリタシ

トノ反対アリ成功セサリキ指令案ノ討議後「アブノル」ヨ  
リ「ライヒマン」ノ指名ヲ披露シ宋ハ民國ニ貢獻セル同氏  
ノ派遣ヲ喜フト支持シ決定シタル次第ナルカ獨逸トシテハ  
同人ニ對スル警戒ヲ緩メサル方針ナリ  
(二)<sup>(2)</sup>ニ關シテハ宋ハ理智ニ富ミ形勢ヲ觀ル明アリ歸國後徒ニ  
日支關係ヲ後戻リセシム利害ヲ見誤リモスマシ現今歐洲  
ノ支那ニ對スル評價ニ顧ミ支那力政治的ニ諸國ヨリ援助ヲ  
期待スルカ如キハ誤算ト言ハサルヲ得ス熱河敗退前ニハ多

連盟对中国援助特別委員会への參加などに關  
する米國國務省極東部長の談話について

ワシントン 7月26日後発  
本 省 7月27日前着

第六四〇號

二十五日武富ヲシテ極東部長ヲ往訪シ主トシテ聯盟ノ對支技術援助特別委員會ヲ話題トシ米國ノ對支五千万弗信用供與及宋子文ノ歐米ニ於ケル活動等ヲ交へ在英大使宛貴電第19〇號ノ御趣旨ヲ「インプレス」スルニ力メシメ置キタル處其節極東部長ノ應答中ヨリ何等御参考迄重ナル點ヲ摘要スレハ左ノ通

一、聯盟委員會ニ對シテハ米國トシテハ聯盟ヨリ招待ヲ受ケタルヲ以テ「マリナー」ヲunofficial observerトシテ參加セシメタル迄ニテ聯盟ニ對スル米國政府既定ノ方針ニ依リ行動スル以外他意ナシ右委員會力如何ニ進行シ行クヤハ「マリナー」ヨリ未タ報告ニ接セサルモ對支援助ニ關スル諸計畫ハ過去數十年ノ經驗ニ徵スルモ成敗ハ今ヨリ豫期シ難シ自分ハ今回ノ聯盟ノ計畫ハ一九三一年五月以來ノ既定計畫ニ一步ヲ進メントスル迄ニシテ試ミトシテ續ケ行ケハ良カラント考ヘ居ル次第二過キス聯盟ト日本トノ關係ハ米國トシテハ考慮シ居ラス恐ラク日本ハ

英、佛へ轉電シ紐育へ暗送セリ

227 昭和8年7月28日 ロンドン國際經濟會議全權より  
内田外務大臣宛(電報)

連盟の对中国援助強化などに關し石井國際經濟  
會議全權より連盟事務總長に注意喚起について

ロンドン 7月28日後発

本 省 7月29日前着

(<sup>1</sup>) 第二〇七號  
石井ヨリ

二十八日聯盟新事務總長「アブノウル」氏ヲ往訪シ多年ノ友人トシテ腹藏ナキ意見交換ヲ爲セリ大要左ノ如シ

石井、夷ヲ以テ夷ヲ制スルハ支那傳來ノ外交手段ナリ從來極東ノ紛擾ハ主トシテ列國中支那ノ術數ニ陷ルモノアリシカ爲ニシテ今後右ノ支那ノ手ニ乘ラスシテ以テ東洋ノ禍亂ヲ未發ニ防止セントスルコト此實ニ佛英米日ノ銀行家ヨリ組織セラレタル借款團成立ノ根本精神ナリ然ルニ今ヤ支那ハ英米佛伊獨銀行家ヲ網羅シテ一ノ諮問委員會ト稱スルモノヲ組織シ事實上從來ノ借款團ヲ消滅セシメントスル計畫ヲ進メツツアリ支那ノ眞意ハ日本ヲ列國ヨリ除外シテ完全ナル孤立ニ陷ラシムルニ在ルハ謂フ迄モナシ斯テ支那ニ對

シ最大ナル利害關係ヲ有スル日本ヲ差置キ利害關係ノ日本程重大ナラサル他ノ列國ニ於テ支那ノ將來ヲ調理セントスルカ如キハ不自然極マル計畫ニシテ斯ル計畫ノ失敗ニ終ル可キハ豫期セラル所ナリ抑々聯盟ハ既ニ起リタル國際紛擾ヲ妥協解決スルノ任務ノ外更ニ重大ナル任務ヲ有ス即チ國際紛爭ヲ來ス可キ事項ヲ未前ニ防止スルニ努力スルノ任務之ナリ然ルニ聯盟ニシテ綴上ノ支那ノ計畫ニ對シ獨リ警告ヲ與ヘサルノミナラス進ソテ其ノ計畫ヲ助長スルカ如キ行動アルニ於テハ聯盟ハ其ノ使命ニ逆行スルコトナルヘシ

(<sup>2</sup>) 「ア」、銀行團ト云ヒ新委員會ト云ヒ夫ハ聯盟ノ知ラサル所ナリ聯盟ハ一九三一年以來道路計畫ノ爲二名ノ技師、衛生事項ノ爲事務局員一名其ノ他一名ヲ支那ニ派遣シテ支那ノ技術的事業ニ對シ助言ヲ與フルモノニ過キス夫レカ聯盟使命ニ逆行スルニ當ルトハ意外ナリ右、聯盟カ借款團及新委員會成立ヲ知ラストハ公然ノ沙汰トシテノ事ナリ實際ニハ二者共完全ニ知レ渡レル所ナリ又聯盟カ技術的事項ニ付支那ニ専門家ヲ遣ルト稱スルモ其ノ人力一度支那ニ到ラハ忽チ支那ノ誘惑ニ掛リ使命以外ノ事項ニ活動スルハ事實ノ

既ニ證明スル所ニ非スヤ然ルニ聯盟ハ右ノ如ク使命範圍ヲ超越シタル其ノ派員ヲ召還シテ其ノ責任ヲ明カニセサリシ而已ナラス今ヤ再ヒ同一ノ人ヲ聯絡員ノ名義ノ下ニ派遣スルニ至リテハ其ノ言フ所ト爲ス所トノ間ニ餘リニ明カナル矛盾アリテ殆ト「マキヤベリー」式外交ノ觀ラ呈スノ如キハ新外交ヲ以テ新世界ノ平和ヲ樹立セント稱スル聯盟ノ爲眞ニ惜シム可シ

「ア」、其ノ點ニ付閣下ノ御安心ヲ受ク可キ事實ヲ内話ス可シ過日巴里ニ於テ理事會分科會ヲ開クニ當リ自分ハ新事務總長トシテ特ニ列座ノ注意ヲ喚起シ度キモノアリ

<sup>(3)</sup>夫ハ聯盟ヨリ新タニ派遣セラルヘキ聯絡員ハ

(一)單純ナル技術的即チ非政治的 (purely technical and non political) 事項ヲ越ユヘカラサル事

(二)特ニ日支紛争トハ絶對沒交渉ナラサルヘカラサル事

ノ二點ナリト提議セリ一同ハ右了解ノ下ニ「ライヒマン」

氏ヲ送ルニ決シタル次第ニシテ同氏カ右ノ如キ嚴正ナル訓

令ヲ持チ乍ラ其範圍ヲ越ヘテ他ニ活躍スルカ如キハ既往ハ

兎ニ角今回ハ必無ナルヘキヲ確信ス

石井、嚴正ナル訓令ハ結(構)ナルカ「ライヒマン」カ今

### 連盟の対中國援助強化に否定的な仏國紙論説 について

パリ 7月29日後発  
本省 7月30日前着

<sup>(1)</sup>第三四五號

張學良ハ七月二十二日倫敦ヨリ來巴以來Orley飛行場Meaulte飛行機工場Chartres爆撃聯隊等ヲ見學シ右ハ二臺ノ飛行機買入ノ爲ナリト稱セラレ居リタルカ二十六日ニハ海軍大臣「レイグ」ヲ訪問シ又二十七日「ボンクール」新シキ陰謀、「ボンクール」ノ御親切ト題スル「ペルティナツクス」ノ論説ヲ掲ケタリ要旨左ノ通

二箇月以來日支紛争ハ緩和セラレタル模様ナリ關東軍カ支那軍排撃ノ爲長城以南ニ進出シタル際五月十七日蔣介石ノ代表黃郛北平ニ赴キ五月三十一日停戰協定ノ成立ヲ見タルハ記憶ニ新ナル所ナリ爾後駐平政務整理委員會ノ設置及大連會議ノ開催等引續キ種々ノ和平手段迅速ニ講セラレタリ

右ノ如キ南京ノ穩健政策ハ宋子文ノ容レサル所ニシテ宋ハ

回夫ヲ嚴守スヘシトハ余ノ信シ能ハサル所ニテ過去ニ於テ氣運ジミタル活動ヲ敢テシタル彼ニ對シ聯盟力彼ヲ牽制シ能ハサリシ經過ヲ知ル所ノ彼ハ又モ軌道外ニ活躍スルモノト見ルノ外ナシ「ドラモンド」氏カ十四年ニ亘リ聯盟ニ偉大ナル貢獻ヲナシタル内ニ一ノ過失ト稱セサルヲ得サル點ハ支那問題ニ對シテナリ余ハ直接間接聯盟力支那問題ニ沒頭スルノ危険ヲ說キ其深入ヲ戒メタリシカ夫レニモ拘ラス「ド」氏カ遂ニ其渦中ニ陷リタルハ殘念ナリキ今新事務總長ニ對シ此ノ苦言ヲ呈スルハ年來ノ友情已ムヲ得サレハナリヲ召還セサリシ點ハ自分モ今尙遺憾トスルモノナリ彼ハ今同一年間休職無給ノ儘支那ニ赴クモノナルカ彼カ再ヒ越權行爲ニ出ツルノ結果如何アランカハ明敏ナル彼トシテ之ヲ知ラサル筈ナシ是レ余カ彼ノ誤ノ繰返サレサルヘキヲ確信スル所以ナリ

巴里聯盟へ轉電セリ

~~~~~

228 昭和8年7月29日 在仏國長岡大使より  
内田外務大臣宛(電報)

右ハ何等政治的目的ヲ有スルモノニ非サル事ヲ論シタル力  
斯クノ如キハ「ライヒマン」カ登場シ居ル限り首肯シ得サ  
ル所ナリ無心ノ「ボンクール」ハ宋及其ノ一派ヲ激勵スル

事ハ軽テ聯盟ニ關聯セル列國ノ利益ヲ計ル所以ナリト想像シ居ルモ結果ハ支那問題ニ關シ日佛相互ニ支持スヘキ事ヲ規定セル一九〇七年ノ條約ヲ主張シ得ル日本ヲ却テ佛國ノ向フニ廻スニ過キサルヘシ

將來日本ハ西太平洋ニ勢力ヲ有スヘク吾人ハ印度支那ノ吾植民地タル事ヲ永ク忘ルヘカラス

在歐各大使（土ヲ除ク）及米ヘ轉電セリ

229 昭和八年七月三十日 在天津田中（莊太郎）總領事代理より  
内田外務大臣宛

連盟の对中国援助に対する日本の対応に関する

中國各紙論調について

（8月15日接受）

昭和八年七月卅一日

在天津 總領事代理 田中 莊太郎〔印〕

（別添）  
大公報 七月二十七日

「日本ノ聯盟對支合作反對ノ眞意」

日本政府ハ本月二十四日外務省ヨリ非公式ニ支那ト聯盟トノ技術合作ニ對シ絕對ニ反對ナル旨並ニ各國力依然斯ノ如キ態度ヲ取ル時ハ日本ハ之ヲ阻止スル爲ニ適當ナル手段ニ出ツヘシト聲明セリ吾人ハ右ニ關シ日本ノ眞意那邊ニアルカヲ知ルヲ得ヘシ即チ

一、日本ハ明ラカニ支那ヲ保護國視セルモノニシテ原來聯盟ノ對支技術合作ハ外國ヨリ顧問ヲ聘スル通常事件ニシテ支那ニ限ラス他國ニ於テモ屢々之ヲ見第三者ヨリ之ニ反對ノ必要ナク又其權利モナキニ不拘日本ノ敢テ之ヲナセ

ル眞意ハ合作ニ反對スルヨリモ寧ロ日支特殊關係ノ表明ニアルモノニシテ此ノ聲明ハ恰カモ「支那ハ日本ノ被保護國ニシテ今後世界各國ノ支那ト外交關係ヲ發生スルモノハ事前ニ保護國タル日本ノ同意ヲ得サルヘカラス然ラサル時ハ日本ハ之ヲ阻止スル爲ニ適當ナル手段ニ出ツヘシ」ト公言セルニ等シ

二、日本ハ支那併呑ノ決心ヲ表明セルモノニシテ一兩年來我

國一部ノ妥協論者カ日本ニ對シテハ一時屈從シテ徐ロニ報復ヲ圖ルヘシトナスモ日本ハ既ニ之ヲ看破シ聯盟ノ對

支合作ニ依ル目的ノ達成ヲ豫メ今次ノ聲明ニ依リ阻止セントスルモノニシテ日本ハ絕對ニ支那ニ振興復起ノ機會ヲ與フルヲ許サス日本ハ大亞細亞主義ノ計劃實現スル迄ハ永久ニ其ノ侵略政策ヲ繼續スルヘン

日本今次ノ聲明ノ意義ハ以上ニ依リ明瞭ニナリタルモ之ハ決シテ空言ニアラススクノ如クセサル時ハ自己保全ヲ謀ル能ハサルナリ一方支那モ亦之ニ依リ、今後日支相互諒解ノ絶對ニ不可能ナルコトニ、今後「徐ロニ報復ヲ圖ル」ノ計劃ハ決シテ妥當ナラサル事ヲ深ク認識シ且ツ今次ノ日本ノ聲明ハ實ニ國事ノ前途ニ對シ憂フヘキモノナルヲ自覺セサル

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

新聞論調ノ件

聯盟對支技術合作ニ對スル日本ノ態度ニ關スル  
ハ益々論議シ居ル處其主ナルモノ、要譯別添ノ通り報告ス

本信寫送付先 在中公使 北平 上海 南京 在滿大使

那ハ一大方針ニ向テ進ミ國力ノ充實ヲ謀リ現代國家組織ノ支那ヲ建設セントス新聞紙上ニハ屢々江、浙兩省ヲ先ツ模範省トナスト云フモ斯ノ如キ制限ヲ加フルヘカラス飽ク迄全中國ヲ以テ其ノ範圍トスヘキナリ日本ハ支那ノ某々數省ヲ整頓スル事ヲ歓迎シ且ツ支那ヲ各省ニ分裂シ歐洲戰前ノ如ク各國各々其ノ勢力範圍ノ特殊地域ヲ有スル状態ヲ最モ希望スルモノナリ一方日本ハ又聯盟ニ暗示シテ凡ソ日本ノ勢力範圍ノ某々省ヲ除イテハ其ノ技術合作ニ反對セサルモ日本ニ關係アル土地ニ對シテハ明ラカニ之ニ反對セリ然レトモ支那ハ斯ノ如キ不合理ナル土地ノ劃分ヲセス飽ク迄全國ノ新建設ヲ謀ラサルヘカラス

七月二十六日 大公報

「日本ハ各國ノ支那援助ヲ阻止セントス」

日本外務省ハ非公式ニ各國ノ支那援助ニ反対ノ旨ヲ表示シ若シ各國カ今後猶斯ノ如キ態度ヲ繼續スルニ於テハ日本ハ之ヲ阻止スル爲ニ適當ナル手段ニ出ツヘシト聲明セリ日本ノ此ノ態度ハ明ラカニ支那ノ獨立國タルコトヲ無視シ支那ヲ支配壟斷セントスル野心暴露セルモノニシテ其ノ支那ニ加フル精神的壓迫ハ彼ノ滿洲占領ヨリモ尙甚シト謂フヘシ

七月二十六日 大公報

「日本ハ各國ノ支那援助ヲ阻止セントス」

日本外務省ハ非公式ニ各國ノ支那援助ニ反対ノ旨ヲ表示シ若シ各國カ今後猶斯ノ如キ態度ヲ繼續スルニ於テハ日本ハ之ヲ阻止スル爲ニ適當ナル手段ニ出ツヘシト聲明セリ日本ノ此ノ態度ハ明ラカニ支那ノ獨立國タルコトヲ無視シ支那ヲ支配壟斷セントスル野心暴露セルモノニシテ其ノ支那ニ加フル精神的壓迫ハ彼ノ滿洲占領ヨリモ尙甚シト謂フヘシ

七月二十九日 大公報

「日本ハ各國ノ支那援助ヲ阻止セントス」

支那力外資ヲ藉リテ國家ノ建設改革ヲ謀ラントスルモ之レ飽ク迄支那主權ノ發動ニシテ日本力之ニ對シ公然脅迫的干渉ヲ爲スハ支那ノ斷シテ容認スヘカラサル所ナリ而テ今世界ノ大勢ヲ觀ルニ經濟ハ逼迫シ商業不振ニシテ殘サレタル有望市場ハ只支那ノミナリ是ヲ以テ日本ハ支那市場ヲ獨占シ各國ノ之ニ對スル活動ヲ阻止セントシテ此ノ舉ニ出テタルモノナルヘキモ各國亦何ソ此ノ好市場ヲ日本ノ蹂躪ニ委ネ拱手傍観スルヲ得ンヤ一方支那今後ノ實際政策ハ日本ノ脅威ニ屈セス支那ノ利益ニ基テ計畫ヲ樹立シ之ニ邁進スヘク國資ヲ本トシ外資ヲ副トシテ基本建設ニ意ヲ注ギ民生ノ發展ヲ圖ルヘク凡ソ非生產的事業ハ之ヲ爲ササルニ不拘日本外務省ハ各國ヲ攻擊シテ支那ニ軍器戰費ヲ貸與スト云フ實ニ無稽ノ言ト云フヘシ

然シ乍ラ日本ノ此ノ種理不盡ナル脅威ハ凡ソ支那ト商務關係ヲ有スル數大強國ノ印象ヲ惡化セシコト甚タシク其眼孔ノ小ニシテ態度ノ蠻横ナルニ對スル反感ト影響ハ將來重大ナル結果ヲ招來スルヤモ計リ知レサルヘシ

七月二十九日 大公報

「日本ハ積極的ニ技術合作ヲ阻止セントス」

更シテ對支友誼關係ヲ復活シ支那ヲシテ其ノ建設ニ日本ノ専門家ヲ利用セシメサルヤヲ質問セントス日本ハ又近來支那ノ輿論力聯盟ノ技術合作ニ因リ政府ニ對シ外資濫用ノ顧慮ヲ生セルハ國民ノ技術合作ニ反對セル證左ナリト云フモ支那國民ハ政府ノ外資濫用ニ反對スルモ技術合作ニハ絕對ニ異議ナキモノナリ

之ヲ要スルニ日本ハ三年來軍政アリテ外交ナク經濟ハ四面楚歌ノ間ニアリ政治ハ國際孤立ノ現狀ニシテ日本ヲシテ斯ノ如キ窮地ニ陥レシハ其ノ責ニニ軍部ニアリ十八世(紀)記ノ封建思想ヲ抱キ而モ徒ラニ現代式武器ヲ有スル爲外國ノミナラス本國人モ亦其ノ壓迫苦ニ堪ヘス一聯盟ノ技術合作問題ニ依テスラスノ如キ大風破ヲ生セシメントスルナリ

セシムルモノニ外ナラスト云フヘシ而テ、元來日支ノ對聯盟關係ヲ見ルニ日本ハ聯盟ヲ仇敵視シテ之ヲ脫退シ支那ハ依然忠實ナル一會員ナル事ニ、聯盟力專(専門)家ヲ以テ其ノ會員國ヲ協助スルハ通常事ニシテ且ツ對支合作ハ既ニ三年以前ヨリ始レルモノナルニ不拘何故ニ今日ニ至ツテ反對スルニ至リシヤニ、技術合作ノ政治的ニ涉ラサルコトハ宋子文ノ聲明並ニ會議後ノ公報發表ニモラカニシテ疑ノ餘地ナキコト

ト四、技術合作ノ內容タル建設事業ハ國民生活トノ關係至大ニシテ支那自身ノ改革問題ニシテ對外作用ニ排日感情ヲ含マサル事以上四點ノ論據ヨリシテ吾人ハ絕對ニ日本ノ反對理由ヲ見出シ得サルナリ

230 昭和8年8月10日

伊藤連盟事務局長代理より  
内田外務大臣宛(電報)

連盟对中国援助委員會議事錄の要点について

而シテ日本ニ對シテハ何故ニ聯盟脱退ヲ敢行シテ其ノ國際合作ノ機會ヲ自棄セルヤ又日本ハ何故ニ其ノ侵略政策ヲ變

往電第一二九號對支援助委員會議事錄（機密）原田ニ於テ入手セルニ付參考諸點電報ス原文郵送セリ

一、事務總長ハ劈頭本件技術援助ハ専ラ一昨年五月理事會決議ニ基キ行ハルヘク從テ日支關係ノ如キ理事會ノ取扱ヒタル他ノ支那問題トハ全ク關係無キコトヲ説明ス

二、佛委員ハ聯絡員ノ權限ハ技術的且非政治的性質ヲ有スルニ止マアル點ヲ明カニスルノ要ヲ述へ獨逸之ニ贊ス

三、獨逸ハ聯盟ノ立場ヲ一層明確ナラシムル爲技術協力ニ關スル一切ノ要求ハ本委員會ニ提出セラルヘク且聯絡員ハ常ニ本委員會ト密接（脱）ヲ保チツツ之ト共同シテ其ノ任務ヲ爲スコトスヘシトシ聯絡員ノ執ラントスル措置ハ財政經濟上重要性大ナルヘキニ鑑ミ豫メ之ニ對スル委員會ノ意見ヲ聽取スルヲ要スルコトスヘシトノ意見ヲ提出ス

四、佛國ハ右ハ委員會トシテ行キ過キナリトシ聯絡員ノ行動力規定範圍ヲ越エサル様嚴重監督スルヲ以テ足レリトス獨委員ハ要ハ委員會力一昨年五月理事會決議ニアル有效ナル監督ヲ爲スニアリ諸專門家ノ任命ニ付テモ監督スヘント述フ

項ナシ

在歐米各大使ヘ暗送セリ

231 昭和8年9月23日 伊藤連盟事務局長代理より  
広田外務大臣宛（電報）

連盟理事会による对中国援助委員會報告の採

択について

ジユネーヴ 9月23日後発  
本 省 9月24日前着

第七二號

對支技術援助委員會報告（郵報濟）

廿三日ノ理事會ニ上程、同委員會議長タル墨西哥理事ヨリ前記報告ノ要點ヲ簡單ニ報告シ次テ顧維鈞ヨリ本件援助ノ非政治的ナル點ヲ明確ニシタル上理事會及事務總長ニ深甚ノ謝意ヲ表シタルノミニテ理事會ハ何等ノ討議モナク報告ヲ採擇セリ

在米大使ヘ轉電シ在歐各大使ヘ郵送セリ

五、宋子文ハ此等心配ハ聯絡員任務ヲ非政治的ト定メタルヲ以テ消失セリト云フヘク委員會力餘リ微細ニ立入ル時ハ聯絡員ノ使命ハ極メテ因難トナルヘシ依テ委員會トシテハ專ラ行動方針ニ關スル重要問題ノ決定ニ止メテハ如何支那政府ハ勿論一切ノ要求ヲ直接理事會乃至委員會ニ對シテ爲スヘシト述フ

六、伊國ハ委員會監督ハ的確ニ如何ニ爲サルルヤト訊シタルニ對シ事務總長ハ（一）聯絡員ハ屢々理事會ニ報告ヲ提出スヘク理事會又ハ委員會ハ之ヲ批判シ若ハ「サジエスチヨン」ヲ爲スヘシ但シ理事會トシテハ總テノ措置力眞ニ國際的性質ヲ有スル様監督スルコト（二）諸專門家ノ任命ニ當リ支那政府及聯絡員ヨリ聯盟ノ諸技術機關ニ依頼セシムルニ於テハ專門家ハ國別ニ依ラス適材ヲ用フルヲ得ルコトノ二保障ヲ上ク

七次テ事務總長ヨリ以上ノ諸說ヲ綜合セル聯絡員ニ關スル内規案ヲ讀上ケタルニ獨逸委員ハ尙満足ト云ヒ難キモ本件協力ノ有效ナル運轉ヲ保障スルニ足ル旨ヲ述へ右案探擇セラル

八、「ライヒマン」任命ノ議事ニ付テハ特ニ追加ヲ要スル事

232 昭和8年9月27日 在中国有吉（明）公使より  
広田外務大臣宛（電報）

宋子文の对中国連盟援助策動などに対する黃

郭の批判的談話について

上 海 9月27日後発  
本 省 9月27日後着

第五六六號

往電第五六四號ニ關シ

二十五日黃郛ト聯絡ノ意味ニテ須磨ヲ往訪セシメタルカ同人談話ノ内容ハ大体往電第五六四號及第五六五號黃郛ノ本使ニ對スル内話ト同趣旨ナル趣ノ處右以外宋子文ノ態度ニ付黃ノ須磨ニ語ル處大要左ノ通

宋ハ歸國後外遊中ノ成功ヲ宣傳シ居ルモ實際成立セルハ棉麥借款位ニテ之トテ支那ニ取りテハ經濟的ニ大シタ利益ナシトテ國內ニモ相當ノ反対アリ又聯盟ノ對支援助ニ付テモ猶太人タル「ライヒマン」ノ派遣ニハ「ヒツトラー」一派ノ反対アル趣ニテ之ニ宋カ外遊中往來セルハ從來ヨリ排日の傾向ヲ有セル三、四流ノ人物許リニテ現ニ某國代表者ノ如キハ南京政府ニ對シ右三、四流人物ノ言動ヲ以テ某國ノ

對支、對日政策等ト過信セサル様注意シ來レル位ナル力

(須磨ヨリ某國代表トハ何人ナルヤト質シタルニ黃ハ其ノ

點ハ申上ケ兼ヌト答ヘタル由)此ノ點ハ宋ノ面子モアリ未

タ蔣介石ノ耳ニ入レ居ラス尙最近宋ノ北上說アリタル爲彼

カ汪兆銘邊リヲ蔑ニシ種々華北ニ於テ策動スルコトナキヤ

ト憂慮シ居タルモ宋ノ北上ハ當分實現セサルモノノ如ク大

ニ安堵セリ(二十六日「アーベンド」ハ「ロツクフエラー」)

財團代表者Gummヨリノ聞込トシテ蔣介石ハ曩ニ在南昌

ノ米國宣教師Andersonニ對シ江西省撫育政策トシテ棉

麥借款ノ一部ヲ以テ基督教監督ノ(脱?)江西省善後計畫

ノ立案方内密依頼シタル處宋ハ右蔣ノ計畫ニハ反對ニテ之

トハ別ニ「ガム」ニ對シ「ロツクフエラー」監理ニ依ル江

蘇、浙江、安徽三省ノ文化的行政施設計畫ノ立案ヲ極秘依

頼セル旨内話シタル趣ナリ)

滿、北平、南京、天津へ轉電セリ

233 昭和8年10月6日 伊藤連盟事務局長代理より

廣田外務大臣宛(電報)

ポーランド政府はライヒマンの行動を認知し

ヲ爲シ不成功ニ歸シタルコトヲ概略話シタル處同代表ハ右  
ヲ外相ノ参考ニシ置クヘク或ハ更ニ報道ヲ得ラルルヤモ知  
レスト述ヘ居タリ  
右ハ同外相ノ希望モアリ極秘扱ニ願度シ  
英、米、佛、獨ヘ暗送セリ

234 昭和8年10月8日 在濟南西田(畔一)總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

連盟の对中国援助は技術と政治の区別困難と  
の韓主席の内話について

第二五七號  
八日本官歸朝挨拶ノ爲韓主席ト會談ノ節韓ノ内話左ノ通  
一、華北時局ハ方振武、吉鴻昌モ結局四散ノ外ナク差當リ擴  
大ノ虞ナシト思料セラルルモ私見ニ依レハ中央ノ江西ヲ

中心トル長江福建方面ノ共產軍討伐ハ容易ニ奏效セサ  
ルノミナラス四川ニモ漸次擴大ノ傾向アリ甘肅、新疆ノ  
西北方面モ急ニ整理ノ見込ツカス蘇聯ト隣接ノ爲追テハ  
赤化ニ依リ拾收ツカサルノ懸念アルニ付何れ六ヶ月後ニ  
ハ各所ニ動搖ヲ來シ華北ノ事態ニモ變化ヲ生スルニ非ス  
ヤト思ハル

二、「ライヒマン」來華シ聯盟ノ技術援助ト言フモ政治ト技  
術トノ區別困難ニシテ支那自身確立セサルニ如何ニシテ  
援助ヲ得ルヤ結局ハ國聯自己ノ爲ニ外ナラス要スルニ東  
亞大局ノ保善ハ日支兩國ノ融和結合ニ依ルノ外ナシト考  
ヘ居レリ云々<sup>支ヨリ上海へ轉電アリ度シ</sup>  
<sup>天津ヨリ北平へ轉電アリ度シ</sup>

ておらずとの連盟理事会同国政府代表の内話  
について

ジユネーヴ 10月6日前發  
本 省 10月6日後着

第九七號(極秘)

今般理事會ニ於テ波蘭代表カ阿片問題ノ擔當者トナリタル  
ニ付宮島博士ノコトニ付注意ヲ喚起シ置ク爲五日同代表ヲ  
往訪シタル處其ノ節極内密ノ話トシテ「ライヒマン」ハ波  
蘭國籍ヲ有スルモ波蘭政府ハ彼ト何等ノ關係無ク政府ハ全  
然彼ノ行動ヲ「デザブループ」シ居ル次第ナルニ付此ノ旨

日本政府ニ傳ヘラルル様本官へ傳言方「ベツク」外相ヨリ

特ニ依頼アリタル旨ヲ述ヘ且同外相ノ觀察ニ依レハ彼ノ尻

押ハ歐洲ニテハ「フリーメーソン」ノ連中ニテ中心ハ壽府

ハ勿論多分柏林方面ニモアル如ク(此ノ點不明ナルモ)又

米國ニ於テハ或財界ノ有力者ナルカ其ノ背後ニハ佛國ノ

「モネー」ノ策動アルラシキニ付此ノ方面ヨリ研究セハ排

日進行ノ筋途力判明スルナラントノコトナリト言ヘルニ付

本官ハ右通告ヲ謝シタル後「モネー」ノコトハ當方ニテモ

承知シ居レリトテ倫敦ニテ宋子文カ別ノ委員會ヲ作ル運動